

今年の梅雨は降雨量が少なく真夏日が続き、渇水が心配されていましたが、台風4号が過ぎ去ってからは、梅雨空が戻りましたね。水不足も少しは解消されたのでしょうか。私は毎日の通勤で、加茂川沿いを車で走っていますが、あんなに川幅が広いのにも関わらず、水が途切れること(瀬切れ)があります。先日、3年3組の生徒と、西条市『環境に関する出前講座』を受講しました。水の都西条市も、うちぬき(地下水)の塩水化や硝酸態窒素の増加による水質の変化、瀬切れに伴うカジカなど希少な生物の絶滅が深刻化していることを学びました。まずは知ること。そこから自分にできること、したいことが見つかります。

さて、いよいよ夏休みが始まります。夏休みは、時間にゆとりがあって、じっくり本を読むのにはよい期間です。さまざまな知識を得、これからの自分に生かしていきましょう。図書室では快適な環境の中、蝉の鳴き声を聞きながら、読書や自習学習ができます。夏休みの読書感想文用の本はもう準備できていますか。今回お知らせする読書感想文の課題図書3冊も、準備できています。新刊も入っています。皆さんが夏休み中、良い本と出会い、2学期には、また成長した姿を見せてくれることを願っています。



第68回

読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。

## 青少年読書感想文全国コンクール



### 高校の部 課題図書の紹介

○ 瀬尾まいこ 著 『その扉をたたく音』 集英社

29歳、無職。夢はミュージシャン。人生に行き詰まっていた青年と、老人ホームで出会った「神様」との奇跡の夏が始まる――。

怠惰な日々を送る宮路は、演奏に訪れた老人ホームで「神様」に出会う。人生の行き止まりで立ちすくんでいる青年と、人生の最終コーナーに差し掛かった大人たちが奏でる感動長編。

○ 隈研吾 著 「建築家になりたい君へ」 河出書房新社

「ぼろい家」に育ち、建築家を夢見てアフリカやアメリカへ。難題だらけの仕事にどう挑むのか。日本を代表する建築家が今伝えたいメッセージ。

10歳で建築家を志し、国内外で多数のプロジェクトをてがける今もっとも注目の建築家が建築知識満載で綴る10代へのメッセージ。建築家とは、そしてこれからの建築とは――。

○ 中村玄 著 『クジラの骨と僕らの未来』 理論社

骨格に興味を持ち、ペットの墓あばきから始まった少年の好奇心。ついに哺乳類最大のクジラの博士になるまでを生き生きと描く。

小さな頃から生き物が大好きだった著者は、中学2年生の時、骨格見本に興味を持ち、死んでしまったペットのハムスターの墓あばきを思いつきました…。クジラ博士となった研究者の骨からはじまったストーリー。

新刊図書が入りました 😊 図書室入り口付近に置いてあります！



書名	著者名	出版社
デリバリールーム	西尾維新	講談社
小説 王様ランキング 前編	八奈川景晶	角川文庫
小説 王様ランキング 後編	八奈川景晶	角川文庫
ヒロシのソロキャンプ	ヒロシ	Gakken
第三次世界大戦はもう始まっている	エマニュエル・トッド	文藝春秋
人生の指針が見つかる座右の銘 1500	別冊宝島編集部	宝島社
手紙屋 一僕の就職活動を変えた十通の手紙ー	喜多川泰	ディスカバートウエンティーン
手紙屋 蛍雪編	喜多川泰	ディスカバートウエンティーン

近いうちに、追加購入します。希望の本があれば、図書室のリクエストボックスに投函してください。

### ☆ 図書委員会からの報告 ☆

図書委員会では、6月に図書委員ビブリオバトル、朝の読書の時間に各クラスでお勧め本の紹介を実施しました。

ビブリオバトルとは……

- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に本を紹介する。それぞれの発表の後に、その発表に関するディスカッション(質問)を行う。
- ③ 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

たったこれだけのルールでいろんな本に巡り会え、本を読むのが楽しくなるコミュニケーションゲームです。今回の図書委員チャンプは、委員長

の3年3組藤原大和さんでした。紹介本は島崎藤村書『破壊』。以下は、大和さんの紹介内容です。

本書は島崎藤村の代表作で、部落差別をテーマにした明治時代の長編小説です。主人公である瀬川丑松は、被差別部落の生まれでしたが、それを隠し、教員として生きていました。同じ宿命を持つ解放運動家、猪子蓮太郎の壮烈な死に心を動かされ、身分の告白へと追い詰められていきます。身分を隠せという父の戒め、いつかバレしてしまうのでは、次に後ろ指をさされるのは自分ではないかという恐怖、差別に抗うべきという正義感、下宿先の娘への恋…。差別される側の人の心の苦しみや葛藤が、ひしひしと伝わってきます。

現代社会にも様々な差別問題は潜んでいます。現実の厳しさと、それに立ち向かう勇気を丑松の姿から学ぶことができ、ぜひとも一度は読んでほしい一冊です。読書が苦手な人は、本書の漫画が小松温芳図書館にありますので、それを読んでみるのもオススメです。

この物語は、前田和男監督、間宮祥太郎主演で、60年ぶりに映画化され、7月8日劇場公開です。

### ☆ 夏休みの図書館利用 ☆

7月21日(木)から7月29日(金)、8月22日(月)から8月24日(水)を開館日とします。時間は11時から15時とします。セミナーの空き時間などに有効活用してくださいね。



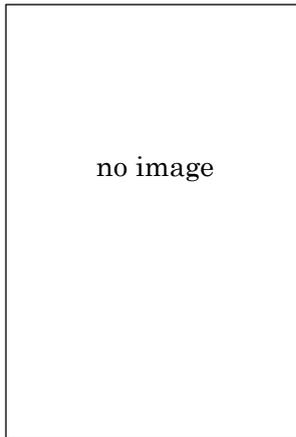
no image

☆☆ 英語科 松本秀樹先生より ☆☆

**私の愛読書**

今年度、本校に新しく赴任された先生方から、愛読書を紹介していただきます。

岡昇平著 「野火(のび)」 ー文学の奥深さを教えてくれた一冊ー



大岡昇平(1909-1988)という小説家が書いた「野火(1951年)」という小説が私の愛読書です。

私が高校3年生の時、自宅の姉の部屋で偶然手に取ったのがこの本でした。当時、ろくに受験勉強もせず生ぬるい生活を送っていた私でしたが、物語の最初の一行を読み始めた途端に、異様な力に胸ぐらをつかまれ、作品のなかに引きずり込まれました。時間の経つのも忘れ、読み終えた時には、夜が明けようとしていました。

この作品は、太平洋戦争末期のフィリピンの熱帯の密林が舞台です。肺病を病み、部隊からも追放されて孤独に森を彷徨する兵士の「心の世界」がとても迫力のある日本語で描かれています。戦争という極限状況に置かれた一人の人間の孤独、愛、死、飢餓、人肉嗜食、そして「神」とは何かなど、重く暗いテーマが硬質な鋼(はがね)のような文体で描かれています。物語を読み進むにしたがって、日常的な理性や感性では捉

えきれない奥深い世界が広がっていきます。

この作品が描く世界は、私たちの平和な日常からはかけ離れた世界ですが、ここには、まぎれもなく「人間の真実」が刻まれており、この作品を読んだ後、たぶん、自分の中の何かが変わっているでしょう。若い時代には是非トライして欲しい小説です。

**私の推薦図書**

今道友信著 美について(1973年) 講談社現代新書

あれこれと迷った挙句に本書を紹介しようと思います。

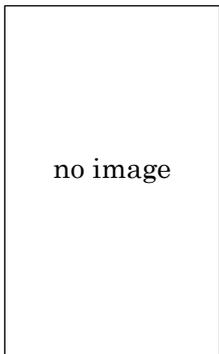
この本と出合ったのは私が大学生の頃でした。学生時代は、「美」とは程遠いやさぐれた生活を送っていた私でしたが、いつも立ち寄る古書店で偶然に見かけて、なぜかタイトルに惹かれて、購入しました。

本書は、タイトルに示されている通り、私たちの生活のなかにある様々な「美」について論じた哲学の書なのですが、同時に私たちの生き方の「美しさ」について述べた倫理学の書でもあり、マニアックな人に一読をお勧めしたい一冊です。

当時、いろいろと挫折を味わい、荒んだ心の私でしたが、本書を読みながら、「もの」の美しさの彼岸に人の「精神」の美しさを発見していくという作者の「思考の世界」に触れて、私の暗い世界に光が差してくるような思いがしました。作者と一緒に、思考の階段を昇りながら、同時に自分の心も高められていく(謙虚になっていく)、そんな感覚にもなりました。

また一方で、この本は、表面的な印象や断片的な知識のレベルに安住せず、合理的な思考を積み重ねて、目に見える世界を掘り下げ、目に見えない世界を開いていく、つまりは知識を総合し合理的に考えることの「カッコよさ」を教えてくれる一冊でもあります。

本書は、タイトルだけ見ると難しそうですが、実際は難解な用語を使わず、平易な日本語によって、ひとつひとつ思索を積み上げながら、「美」の本質に迫る稀有な一冊と言えます。



☆☆ 商業科 今井 敬先生より ☆☆

## 私の愛読書

百田尚樹著 「日本国紀 上下」

### 『日本国紀 上 古代～幕末』

日本ほど素晴らしい歴史を持っている国は在りません。最も各国の方々も自国のことをそう主張されるでしょう。私たちは日本史を学ぶのですが、点と点は学んでも、全体の流れを理解できてなかった気がします。一度読んでみませんか？

### 『日本国紀 下 明治維新～現代』

歴史はヒストリーですが、ストーリーと同じ語源とされています。従って歴史とは物語です。近世の私たちの物語を再考してみませんか？

no image

## ☆ 集英社『青春と読書 2022年7月号』より、綿矢りささんへのインタビューから抜粋 ☆

Q: 夏の読書をめぐって、夏休みの読書感想文を書くとき、どうやって本を選びましたか？

A: 集英社さんのナツイチを始め、各出版社さんが小冊子を作りますよね。簡単な内容紹介や本文の抜粋が載っているので、あれを本屋さんで手に入れて、参考に探したりしました。中高生のころはある作家さんの本が好きだと思ったら、文庫本を片っ端から読んで、さらにその人がエッセイで褒めている本や、その人の作品のなかで登場した本などにも、芋づる式に手を伸ばしました。だから偏っているんですけどね。いずれにしても、まずは自分が最も興味を持っているものに関連する本をとっかかりにしていくのがいいのではないかと思います。例えば野球に打ち込んでいるのなら、野球関連の何かを読んで、徐々に野球を題材としている小説にも挑戦してみるとか。活字を読んで想像を膨らませることに慣れるのが、まずは大事だと思います。

### 【綿矢りさ】

1984年京都生まれ。2001年『インストール』で文藝賞受賞。早稲田大学在学中の2004年に『蹴りたい背中』で芥川賞受賞。2012年『かわいそうだね？』で大江健三郎賞、2020年には『生のみ生のままで』で島清恋愛文学賞受賞。『勝手にふるえてろ』『ひらいて』『私をくいとめて』など映像化作品も多い。ほかの著書に『慎死』『手のひらの京』『オーラの発表会』『あこのころなにしてた？』など。

### 各出版社の小冊子 紹介

集英社 「ナツイチ 2022」

新潮文庫 「高校生に読んで欲しい50冊 2022」

岩波書店 「岩波ジュニア新書読書ガイドブック 2022」 など

各出版社のホームページからも検索ができます。本校図書室にも小冊子が届いていますし、書店にも小冊子が置いてあります。1年次に購入した「らいぶらり」にも、愛媛の図書館担当教員の推薦図書とその内容、さらに生徒の選んだ図書20冊も記載されています。夏の読書の参考にしてみてください。